

アスベスト含有廃棄物無毒化処理実証実験結果 環境省



環境省は平成 18 年 1 月から 3 月にかけて、全国の 3 施設で実施していた、アスベスト含有廃棄物の溶融無害化処理の実証試験結果を 18 年 6 月 29 日に公表しました。

廃アスベスト成形板など、アスベストを含有する廃棄物は現状では最終処分場への埋め立て処分が主となっていますが、産廃最終処分場の残余容量が逼迫している上に、建築物の解体増加に伴う非飛散性アスベスト廃棄物の排出量増加が見込まれる現状では、高温での溶融処理など、埋め立て処分以外の処理方法を確立する必要性が大きくなってきています。

今回の実証試験は、以下の通りです。

- (1) 北九州市の新日本製鐵(株)プラント・環境事業部の実験用施設であるシャフト炉式ガス化溶融炉(日処理能力:20 トン)にアスベスト成形板・アスベスト含有家庭用品を投入し、1500℃超で溶融処理した場合の無害化状況
- (2) 広島県福山市の(株)カムテックス産業廃棄物溶融施設(日処理能力:60t)に廃石綿やアスベスト成形版を投入し 1350℃程度で溶融処理した場合の無害化状況
- (3) 京都府舞鶴市の日立造船(株)環境総合開発センターの実験用施設である低速破砕機・高速破砕機にアスベスト成形板を投入し、破砕した場合の発じん状況・集じん機によるアスベストを含む粉じんの捕集効率の確認を行なったもの

実施結果としては、3 施設いずれも敷地境界・一般環境へのアスベストの影響が見られなかったと報告されたほか、(1)(2)の施設では無害化処理後物にもアスベストが検出されなかったとしています。

また、(3)の粉砕試験では、バグフィルターがアスベストを含む粉じんを高効率で捕集したことが確認されました。

当社では、大気・建材等のアスベスト分析を行っております。お気軽にお問い合わせください。

資料 2006 年 6 月 29 日付 EIC ネット

環境分析箇所 重田郁美